

令和7年度 江東区立 東陽中 学校 自己評価表

校長名 関根 淳之

目標に向けた取組についての自己評価

重点領域 1		研修の充実と学力の向上			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	ICT機器の積極的な活用、効果的な活用について、校内研修などを通じて取り組む。 年度末の振り返りで、研修への積極的な取組について、教員の肯定的回答を100%とする。 また、活用においては生徒にルールやモラルを大切にさせる。	90%	全国学力学習状況調査の質問調査における ICT機器の活用（文章作成、情報収集や整理など）に対する肯定的回答 $\geq 85\%$ こうとう学びスタンダードアンケートにおける Chromebook を活用した学習に関する質問への 肯定的回答 $\geq 85\%$ 学校評価アンケートにおける 授業等で Chromebook を使うことによる学習効果や学習意欲の高まりに対する肯定的回答 $\geq 80\%$ 生徒による授業評価アンケートで各教科の授業に意欲的に取り組んでいる に対する肯定的回答 $\geq 90\%$	86.2% 90.1% 80.6% 88.0%	A
2	生徒が主体的に学び、知識を活用して深く考える授業を実践する。 このような授業により、生徒がわかる、生徒が学ぶ楽しさや喜びを味わえる、生徒がかがやく場面を増やし、学力の向上を図る。	90%	こうとう学びスタンダードアンケートにおける 国・数の授業内容がよくわかる に対する肯定的回答 $\geq 90\%$ 生徒による授業評価アンケートで各教科の ・授業内容がよくわかる ・進度がちょうど良い ・わかる楽しさを感じられた に対する肯定的回答 $\geq 90\%$ 学校評価アンケートにおける ・わかりやすい授業 ・基礎、基本が身についている 各項目の肯定的回答 $\geq 85\%$	84.0% 88.0% 86.7%	B
3	こうとう学びスタンダード～ネクストステージ～の着実な定着と、こうとう学び方スタンダード8項目を常に意識させた生活を送らせるよう指導する。	100%	こうとう学びスタンダード定着度調査（国、数、英）の結果で考察する（区平均を上回る） 学校評価アンケートにおける 学び方スタンダードの8項目を守っている に対する肯定的回答 $\geq 80\%$	100% 81.2%	A

<様式1>

<結果についての分析と改善策>

研修については、今年度江東区教育委員会「ICT教育推進校」の指定を受け、今までも教育活動にICTの活用を図ってきたが、今年度はより積極的な、より効果的な活用を目指し、研修に取り組んだ。教員側は操作があまり得意でない教員もいるが、全体的にはテーマに沿ってICTの活用に取り組み、生徒の指標からもその成果が表れている。また、昨年からの課題であった、使用時のマナー、モラル、ルールの遵守について、一定の改善は見られたが、教員側からはもう一歩の声もある。次年度も遵守の徹底に努める。

学力の向上については、生徒が主体的に学ぶ授業の実践、わかった、力がついたら実感できる授業の実践を目標に、全教員が一丸となって取り組んだ。副校長とともに毎日の授業観察に努めたが、授業が改善されているのを確認できた。そしてその成果が学力調査の結果となって表れている。今回指標とした「こうとう学びスタンダード定着度調査」は今年度から2学年のみの実施となったが、3教科とも目標を達成、3学年で実施した全国学力学習状況調査では、国・数ともに全国の平均正答率は上回ったが、都の値には届かなかった。次年度の課題とし、引き続き取り組む。

重点領域2		豊かな心の育成			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評価
1	全教員が常に生徒に寄り添った指導を展開する。特に不安や困り感を抱えている生徒に対し可能な範囲で関わり、声をかけ、適切な支援、指導を行う。また、SC、SSW、関係諸機関を有効に活用する。	90%	全国学力学習状況調査の質問調査における 先生や学校にいる大人にいつでも相談できる に対する肯定的回答 $\geq 85\%$ 学校評価アンケートにおける ・教員の生徒理解 ・困ったときの迅速な対応 ・相談しやすい体制 各項目の肯定的回答 $\geq 80\%$	65.1% 85.5% 67.9% 69.1%	B
2	いじめや不登校、問題行動といった学校の課題の解消に向け、全教員が一丸となり取り組む。また、全生徒が安全で安心して学校生活を送れ、満足して下校できる東陽中をつくりあげる。	80%	全国学力学習状況調査の質問調査における いじめはどんな理由があってもいけない に対する肯定的回答 $\geq 90\%$ こうとう学びスタンダードアンケートにおける いじめはどんな理由があってもいけない に対する肯定的回答 $\geq 90\%$ 学校評価アンケートにおける いじめなどの困ったときの対応 に対する肯定的回答 $\geq 75\%$ 不登校生徒の出現率 $\leq 5\%$	92.1% 92.6% 67.9% 5.3%	B
3	スマイルルームや校内別室指導支援員を活用した不登校生徒への支援を充実させる。	80%	スマイルルーム利用生徒へのアンケートにより考察する。		B

<様式1>

<結果についての分析と改善策>

江東区のアクション24にもあるように、生徒がすぐに相談できる体制を全教職員で意識し取り組んだ。早期の相談により、初期段階で解決に至った事案がある一方で、解決に時間を要した事案もあった。

いじめの根絶に向け、これをテーマにした道徳授業を各学級で年3回以上実施、朝礼でも講話を行った結果、「いじめはどんな理由があってもいけない」への肯定的回答が今年度も9割を超え、この意識が定着している。

今年度から始まった「スマイルルーム」(校内教育支援センター)の活用については、支援員を確保し毎日開室、不登校傾向のある生徒の登校への手立てとして活用、8名が利用した。数値でのアンケート結果は無いが、利用したほとんどの生徒から良かった、このおかげで登校できたとの声が聞かれた。次年度はさらに工夫し、より効果的なセンターとする。

重点領域3		体力の向上と健康な生活			
項目	努力指標 (教師側)	達成度	成果指標 (こども側)	達成度	評語
1	運動することの良さや楽しさを実感させる授業を実践する。また、生涯健康で生活するために、運動を続けるという気持ち、目標をもたせる。	70%	こうとう学びスタンダードアンケートにおける ・めあてを立てた学習 ・ウォームアップタイムに積極的に取り組む に対する肯定的回答 上は $\geq 70\%$ 、下は $\geq 90\%$	65.4% 82.8%	B
2	達成感を味わうことができる授業を実践する。 生徒一人一人に体力や運動能力が向上したことを実感させる。	90%	こうとう学びスタンダードアンケートにおける ・保健体育の授業で前よりできるようになったことがある に対する肯定的回答 $\geq 85\%$	88.9%	A
3	がん教育、薬物乱用防止教室、生活習慣病の予防、メンタルヘルス等健康教育に積極的に取り組む教職員を100%とする。	80%	各講習、教室実施後の生徒アンケートにより考察する。		B

<結果についての分析と改善策>

人生100年時代を迎え、健康年齢を伸ばすべく、中学生時代から運動に取り組む習慣や、健康に興味関心をもち、健康を維持する活動を行うべく、学校の教育活動全体を通して取り組んだ。しかし、一年を振り返ると、保健体育科や養護の教員に負担が多く偏りがあったことは否めない。しかし、担当者に聞くと、学年や担当の協力体制は年を追ってよい形になりつつあるとのこと。教職員の意識が良い方向に進んでいる。

生徒の指標を考察すると、体力の向上については昨年同様体力テストの結果に表れているところは少ないが、保健体育科の授業を中心とする様々な場面での教員による生徒への働きかけがあったが、運動が嫌い、苦手な生徒もおり、働きかけが生かされなかった面もあった。生徒の意見からは、保健体育科の授業でできるようになったことがあると実感している生徒の割合が9割近くとなったことは喜ばしいことである。

健康教育についても、生徒への数値に表れるアンケートは実施してないが、意見ではよく分かった、学習した、検査の重要性を知った等の肯定的な意見が多かった。

<様式1>

重点領域4		信頼される学校・地域との連携			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	ホームページ担当者による学年ページや日記ページ、行事予定、給食情報の定期的な更新、東陽中だより、学年通信、保健だよりの定期的な発行を行う。 このような情報発信に積極的に取り組む教員を100%とする。	90%	学校評価アンケートにおける ・学校が積極的に情報発信をしている ・進路について情報発信が十分である ・学校からの情報を読んでいる 各項目の肯定的回答 $\geq 80\%$	96.6% 66.9% 74.5%	B
2	企業や大学との連携企画（企業体験会や運河ルネッサンス、アートイベント）や、職場体験、運動会ボランティア、保育実習など幼・小との連携に関わる教員を100%とする。 また、そのような諸行事への生徒の参加呼びかけを行わせる。	100%	学校評価アンケートにおける 地域の活動や行事に参加している に対する肯定的回答 $\geq 60\%$	70.3%	A
<p><結果についての分析と改善策></p> <p>学校からの情報発信については、年々教員の意識が高まり、HPの更新、各学年通信の定期的な発行、学級によっては学級通信を発行するなど、積極的な情報発信を行い、生徒や保護者から一定の評価を得られた。今年度から学校と家庭、地域をつなぐためのコミュニケーションツールアプリの「すぐーる」を利用し、学年通信や各学年のお知らせを発出している。その効果もあり、情報を読む割合もさらに向上し、情報に期待する声を耳にすることも増えた。進路に関する情報は十分でないとの意見があるので、生徒や保護者が満足するような情報を届けられるよう工夫する。</p> <p>連携についてももしっかり取り組み、生徒の地域活動や行事への参加意識が高まるなど、成果が見られる。しかし、取組における中心となって企画・運営する教員への負担が多くなっている面もある。なるべく多くの教員で役割を担えるよう分担する。</p>					

- 【評語】 成果指標（こども側）の達成度に応じて決定する。
- A：90%以上（目標達成とみなし、次年度は新たな目標を設定する）
 - B：50%以上90%未満
 - C：50%未満（目標や努力指標等を見直す）